

「スマート農業推進フォーラム 2023 in 関東」

～環境負荷低減に資するスマート園芸技術の社会実装に向けて～ 開催要領

1. 開催趣旨

生産現場が直面する高齢化等の課題を先端技術で解決するため、令和元年度から「スマート農業実証プロジェクト」を開始して、地域の課題に即した様々なスマート農業技術の現場実証を実施してきました。

また、スマート農業技術は、令和3年5月に策定された「みどりの食料システム戦略」(以下「みどり戦略」という。)の推進とその目標達成に貢献するものと期待されています。

このため、本フォーラムでは、第1部として実証が終了した令和3年度採択地区の実証成果と、現在実証中の令和4年度の実証について、得られた成果や課題を広く周知し横展開することでスマート農業技術の社会実装を推進します。

さらに、第2部として昨今の資材価格等高騰への対策及びみどり戦略の目標達成へ向け、現場での普及が期待される技術をまとめた『「みどりの食料システム戦略」技術カタログ』(以下、「技術カタログ」という。)掲載技術のうち、スマート農業技術と関連性の高い技術について、開発した研究機関、普及機関、実際に導入した農業者等でのディスカッションを通じ、成果や課題等を広く情報発信し、技術の社会実装の加速化を図ることで、みどり戦略の目標達成に向け機運を醸成します。

あわせて、フォーラムと同時平行で、「明日の農業を支えるスマート技術展示・説明会」を開催し、ブース展示によるスマート技術の紹介を通じ、マッチングの場を設けることとします。

2. 主催

農林水産省、関東農政局、農研機構中日本農業研究センター

3. 日時:12月1日(金)13:00～17:15

4. 開催方法

さいたま新都心合同庁舎1号館（フォーラム会場は講堂(2階)、展示会場多目的室(1階)
なお、フォーラムについてはオンラインで配信

5. 内容

第1部「関東管内におけるスマート農業実証プロジェクトの実証事例」

(1)関東管内のスマート農業実証プロジェクトの取組と普及に向けての課題(仮題)

農研機構 中日本農研センター 研究推進部研究推進室 契約研究員

(みどり戦略・スマート農業推進窓口) 大下 泰生 氏

(2)令和3年度採択地区における実証成果の発表

(株)ファームヤード(埼玉県深谷市)

～露地野菜栽培における自律走行型ロボット及びリモート圃場カメラを活用した農薬散布サービスの実証～

要素技術:自律走行型農薬散布ロボット、リモート圃場監視カメラ

実証代表者:株式会社レグミン 代表取締役 成勢 卓裕 氏

(株)鈴生(静岡県静岡市)

～生育予測と QR コードを活用したスマート商流システムによるトレーサビリティの確立とこれに伴う輸出拡大、並びにスマート農機の利用拡大の実証～

要素技術:生育予測技術、スマート商流(QR コードを活用したトレーサビリティシステム、ブロッコリー花蕾分割装置)、野菜輸出、コントラクター事業

実証代表者:株式会社鈴生 代表取締役社長 鈴木 貴博 氏

(3)令和4年度採択地区における取組事例の紹介

(株)芝山農園ほか(千葉県香取市)

～千葉県地域実装に向けたかんしょ栽培実証～

要素技術:自動調整つる刈機、かんしょ収穫量・サイズの AI 判定技術、かんしょ在庫管理システム、貯蔵庫内腐敗状況センシング

実証代表者:日本工業大学 基幹工学部 電気電子通信工学科 教授 平栗 健史 氏

(4)スマートサポートチームの紹介

(5)出展者の紹介

第2部「有望技術(技術カタログ掲載技術)のさらなる普及に向けて(みどりの技術ネットワーク会議)」

(1)パネルディスカッション

事例1:減肥につながる局所施肥

野菜用高速局所施肥機 (農研機構 農業機械研究部門)

事例2:土壌診断等による減肥技術

秋冬どりのハクサイにおける土壌診断に基づく窒素適正施肥法(茨城県農業総合センター園芸研究所)

パネラー:開発機関、技術カタログ導入農業者、普及機関 その他、必要に応じて関係者

(2)農林水産省からの話題提供

同時開催:「明日の農業を支えるスマート技術展示・説明会」

関東農政局が展示ブースを設け、事業者を募集し、スマート技術の展示・紹介(実機も持参可能) 出展者は後日、関東農政局 HP で紹介

6. その他

(1)出展事業者は9月下旬から関東農政局 HP で募集予定

(2)フォーラムへの参加募集は、10月中下旬に関東農政局 HP で募集予定